

## 「尾崎先生、ありがとうございました」

浅見 賢

「西大畑のみなさんは、お元気ですか?」と、植物調査会の折、いろいろのお話の中で、ときどき、この言葉を掛けて戴いた。尾崎先生のお宅は、新潟大神宮と道路を隔てて向かいの石垣の高台にあった。小生の実家とは、歩いて1~2分しか離れていなかった。中学生の頃友達が「あそこは、植物学者の先生の家だ。押し葉にした新聞紙が、あんなにたくさん干してある」と。小路から見上げると新聞紙がたくさん見えた。また、浜に遊びに行くとき、坂を上ったところの右側に二葉中学校があった。道路から教室も見えた。低い石塀と校舎の間にニセアカシアの大きな樹が何本も並んでいた。その先には松林があり、すぐ海が見え、砂丘の上に出た。校舎のところで何回か尾崎先生のお姿を見かけた。町内でお見かけすることもあり、お名前と顔は知っていた。じねんじょ会ではじめてお会いしたとき、「西大畑の浅見です」とご挨拶したが、しどろもどろだったと思います。子ども時代の気持ちそのままに「植物学者の偉い先生」に初めてご挨拶したのですから…。あれから、いくつ歳を重ねても、小生の心のうちにはその気持ちがありました。今も、そうです。

小生の勤務地である東蒲原郡三川村で採集会が決まったとき、「あのあたりの植物リストがあるから、送ってあげますよ。アイウ順にプリントして、当日みなさんに配布してください」と、三川村の植物リストを送ってくださった。そのプリントを作ったとき、採集会はまだ先のことだというのに、本当に心から嬉しく思った。これで、準備は万端だと。遠い遠い40年も前、じねんじょ会が発足し歩み始めた頃の、昔のことです。あのときのありがたかったこと、気に掛けて戴いたこと、嬉しかったことは、忘れられない。強く心に残っています。

その後も、尾崎先生には飯豊調査の時に、胎内から家まで車に乗せていただくなど、当時、自家用車など珍しい頃でした。何かとたくさんお世話になりました。本当にありがとうございました。

## 尾崎モミジ園

石村 豪

20年程前の5月中旬に尾崎先生より、モミジを見に来ないかとお誘いを受けた。新緑のモミジ観賞は夕方が最高に美しいというすばらしい助言を戴いた。拙宅は先生宅まで歩いて数分のところがあるので早速、先生の進言通り夕方にお伺いした。砂丘の高台にある、広い住宅地の一角にな

んとも思いもよらない程、沢山のモミジが植えてあった。先生のご案内でモミジ園の散策が始まり、1本々々を丁寧にご説明下さり、夕日に映える新緑のモミジの美しさを満喫させて戴いた。更に数多くの写真、スライドを見せて戴き大満足で帰宅した。尾崎先生の貴重な資料の一片だったのである。

桜の花は八分咲きの晴れた日の、午前10時頃が最も美しいとされている。モミジの新葉の最たる見頃の時間帯が新葉の展開した夕暮れ時だと言うことを初めて知った。

以前、京都南禅寺で新緑のモミジを見て大変美しいと感動したことがあった。その時は早朝であった。と、すると新緑のモミジは朝でも夕方でも美しいのかもしれない。

尾崎モミジ園には、どの位の種類と数のモミジが植えられていたかは覚えていない。が、先生は、長年モミジの研究をされていたので、野生種を中心に、珍しい品種を国内外から収集され、園芸種を含めると近辺にない程、相当の数のモミジが植えられていた事と思う。新潟県植物目録[チェックリスト](予報)によれば、県内には26種のカエ



尾崎先生からお送りいただいた南米パタゴニア地方(パイネ国立公園内)の野生 宿根カルセオラリア

1994. 12. 4



尾崎先生からお送りいただいた南米パタゴニア地方(パイネ国立公園内)の野生 宿根カルセオラリアの群生

1994. 12. 7

デカ記録されているが、その中の何種かが園内に植えられていたのだろう。

モミジは庭園に欠かせない植栽樹で、県内にも大きな庭園には必ず植えられている。四季折々の変化にはっきりと表現し、又、童謡にも歌われているように人の心を癒してくれるような植物である。「春はサクラ」、「秋はモミジ」と日本を代表する植物の一つでもある。

モミジ園は先生の長年の労作だったのかも知れません。奥様と一緒に樹木の変化を観察されるのが楽しみだったのではと。そんなご夫婦の光景が目に見えてきます。そのような時も、先生には至福のひとつきだった事と思われま

す。機会があれば再び、尾崎モミジ園を訪ねて見たいと思っています。

'94年に先生ご夫妻が南米の南端バタゴニア地方にご旅行された折、パイン国立公園で撮られた宿根カルセオラリアの写真を頂きましたが、この種の野生群落は初めてで感激しました。園芸植物の仕事に関係している小生に気配りされての事と思っています。

先生は、いつも我々若年層へのご指導やご配慮の念が大きく、深く感謝申し上げねばならないと思っています。そのお人柄が偲ばれます。

ありがとうございました。 合掌 2005. 7. 20

## 尾崎先生ありがとうございました

荻野美代

今、尾崎先生を思い出すのは大きなリュックを背負ってニコニコした姿です。あんな力があのスリムな体のどこにあるのか不思議なくらいです。

初めて採集会に行った水無溪谷の帰りは、例のごとく遅くなり、当時入っていた大学の寮は11時の門限でした。で、それには間に合いません。そのとき初対面であった私を先生がお宅へ連れて行ってくれ、お風呂に入れ泊めてくださいました。西大畑のお宅です。あの当時は無知で、泊めていただくのも当たり前くらいに思い、ろくなご挨拶もできませんでした。

次にご恩を受けたのは、教育実習の時でした。あの頃は教育学部で実習校を決めてくれて、私は中央高校で、しかも、指導教官は尾崎先生でした。今も時々同級生にかまわれますが、惨憺たる実習生の私に単位をくださいました。今教員をしていただけるのも先生のお陰です。

最後にお目に懸かったのは、じねんじょの観察会の海谷

溪谷だったかと思います。ステッキの効用をいくつか説明してくださいました。① 高い枝を引き寄せる。② カメラの三脚代わりにする。③ もちろん、体を支える。④ 手が届かない人に手助けする。

いつも穏やかな笑顔で、どんな質問にも快く答えてくださったあの笑顔がもう見られないと思うと、本当に残念です。先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

## 尾崎先生の思いで

川端義一

尾崎先生にはじめてお会いしたのは、津南町の植物調査の折りです。当時、牧野先生のご尽力で津南町の植物調査が始まり、じねんじょ会員による調査もたびたび行われていました。その調査の一員としてお会いし、その後何度も調査に同行させていただきました。その調査結果はなかなか印刷されませんでした。先生はそのことをとても気にしておられたご様子でした。私のもとへもお見えになり、植生図の写真を撮られたり、いろいろ話をしていかけました。その後、印刷に向けて大変お骨折りをいただき、なんとか印刷にこぎつけました。

先生は企画力や組織力に優れた方でこの他にも様々な調査をまとめられました。カエデの先生として有名ですが、湖沼に関する造詣も深く、多くの調査を手がけられました。その中で、佐瀨、鳥屋野瀨の調査の際には調査員に加えていただき、湖沼調査の方法をいろいろ教えていただきました。船上からの調査も経験させていただきました。

先生は何につけ創意、工夫をされ、調査法や道具に尾崎流の改造がなされていました。その後私が、先生が勤務されておられた中央高校へ勤めることになって、このような工夫や改造が様々な面に及んでいることを知りました。部屋や道具、器具のいろいろなところに尾崎先生が手を入れた跡が残っていたのです。このようなことをするのは尾崎先生しかいないと一目でわかるような仕事がされていました。決してプロの仕事ではないけれども使う立場で考えられた手の入れ方が、何とも尾崎先生らしいと感心させられるようなものばかりでした。

何度も調査や採集にご一緒させていただきましたが、いつも変わらぬ先生の気遣いがあの笑顔と共に思い出されます。

お亡くなりになった年も年賀状をいただき、前年の10月にドイツ、オーストリアに行かれた旨が記されており、お元気そうで安心していました。ところが、入院されていることと病状を総会で聞かされ、翌日病院へお見舞いに伺いました。声も出ない状態でしたが、非常に喜んで下さり、また採集に行きましょうと話すと、手をにぎって答えて下